

ありのままに物事を見る

「悟る」ことを一言でいうと「物事を正しく見ることでできる世界」のことで、日常用語では「理解する・知る・気づく・感づく」などの言葉も考えられます。

逆に「物事を正しく見ることでできない世界」がこの迷いの娑婆世界です。なぜなら物事を見る時、どうしても自分の思いが入り、願望や先入観や自分の都合の善し悪し、得か損か、好きか嫌いかといった見方をしてしまいます。一休禅師が『七曲がりの松』の横に「この松を真っ直ぐに見た者に褒美を与える」という札を立てたところ、町人たちは下から見たり、梯子に上って上から見ただがダメ。そこを通りかかった蓮如上人が「見られた!!」と。

蓮如上人は「曲がりくねった松を曲がった松じゃのーと見るのが、真っ直ぐに見ること」と答えられました。つまり、そのまんま見ることが真っ直ぐな見方であり「黒いものは黒い。白いものは白い」とありのままに見るのが正しい見方で、これが悟りでありましょう。

